

集

いえば分

BUN

「節分」とは…

「鬼は外！福は内！」と元氣よく豆をまく、立春の前日2月3日の「節分」の恒例行事は皆さんもよくご存じですね。

「節分」とは本来、季節の分かれ目のことを指しますが、季節と季節の間にはすき間ができて、そこに邪気（災い）が入りやすいと考えられて、このような行事が生まれたといわれます。

豆には魔除けの力があるとみなされ、「家の中に悪いものや災いが入ってきませんように！」と祈りを込めてまき、おわってからは無病息災を願いながら自分の年の数（プラス1個という説も）の豆をいただきます。

「災い」の象徴としての「鬼」

節分では、「鬼は外！」のフレーズどおり、豆を投げつけられる鬼。子どもころは鬼のお面とわかっていても、泣くほど怖かったという方も多いのでは。

日本の昔話や伝説のなかには、たびたび鬼が登場します。悪い物、恐ろしい物、強い物を象徴しており「鬼にさらわれた、食われた…」という部分を「災い」と置き換えて考えると、伝染病や災害の苦しみと戦った現実味加わり、昔話にひそむリアルな状況を想像できるのではないのでしょうか。

鬼は「外おー」

悪い鬼？

「節分」といえば「鬼」。

鬼瓦、鬼のみち、

高浜市にも鬼のつくものが



▶ 保育園での節分のひとこま。鬼のお面が怖すぎて夜うなされる子もいたことから、最近では比較的カワイイ鬼になったとか。みんなでやっつけろ！



▶ 高浜港駅と三河高浜駅とを結びぶ散策道「鬼のみち」。毎年秋には「鬼みちまつり」が開催され、鬼のダンサーズが登場することも。夜はランブシェード「鬼あかり」に灯がともされます。



鬼のみち！

高浜市観光協会ホームページ <http://www.kankou-takahama.gr.jp/>